

2022
SDGs
活動報告

「ともに創る くらしと未来」を実現するために
わたしたちが行っていること



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

ともに創る 暮らしと未来 ともに創る

ともに創る

一人ではできないことも、知恵と力を寄せ合えば願いを実現することができます。私たちはお互いを認め合い、誰もが生協に参加できることを大切に、一つひとつの願いを、ともに実現していきます。

暮らし

「私と家族の健康を守り、日々のくらしをよくしたい」と誰もが願っています。私たちは一人ひとりの多様なくらしと思いを大切に、人と人のつながりやぬくもりのある心豊かなくらしを創っていきます。

未来

21世紀は地球環境はじめ社会が大きく変化する時代を迎えています。私たちは、人と自然が共生し、子どもたちがすこやかに育まれる、持続可能で平和な社会の実現をめざします。



ごあいさつ

今から47年前の1976年2月29日に生活協同組合コープおきなわは発足しました。当時の設立趣意書からは「有害食品」「物価高」「公害」などのくらしの困りごとを解決しようと810名の消費者が「一人は万人のために、万人は一人のために」を合言葉に「消費者のくらしと健康を守るトリデ」として立ち上げた様子が読み取れます。

そして、今、私たちのくらしを取り巻く環境はどうでしょうか。当時と変わらない問題に加え、「子どもの相対的貧困」「買ひもの・食事づくり困窮者」「徘徊・介護支援」など、くらしの困りごとは、一層増えているようにさえ感じます。

また、ロシアによるウクライナ侵攻や、台湾有事に備えた南西諸島への防衛力強化など、わたしたちのくらしの安全・安心を根底から覆しかねない事態が進行しています。

生活協同組合コープおきなわ
代表理事 理事長
川越 雄一郎



2016年、国連は「協同組合の思想と実践」を世界無形文化遺産に登録しました。

「協同」の前提は、ダイバーシティ（多様性を認め合うこと）＆インクルージョン（受け入れ活かすこと）であり、その目的は、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすことです。

コープおきなわは、生活者一人ひとりが協同することで身近なくらしの困りごとの解決をめざします。そして、そのことの日々の積み重ねがよりよいくらしづくり、ひいてはSDGsのめざす「持続可能な社会づくり」につながるのだと信じています。

わたしたちは「ともに創る 暮らしと未来」の理念のもと、行政や地域の諸団体の皆様方と、一緒に、よりよいくらしづくりをすすめていく所存であります。

今後とも皆様方のご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

めざす組織

生協は、一人ひとりのよりよい暮らしを、協同の力で実現するための組織です。暮らしが変わる中で、人と人とのつながりを通して、「めざす組織」を実現していきます。

- 暮らしに必要な商品を「安心」して購入できる。それをみんなの「協力」で実現している。
- いつも、人の「主体性」と「成長」が大切にされ、学びと交流を大切にしている。
- 「変化への対応」が大切にされ、よりいいものを「協同」の力で、実現している。
- 「愛と思いやり」があふれ、居心地のいい空間が広がり、「幸せ」が大切にされている。
- 商品だけでなく、暮らしそのものを、「生涯」支える組織になっている。

市町村別組合員加入状況（加入率）

市町村	組合員総数（2023年3月末）	
	県の世帯数 2023年4月1日	加入率（%）
全県計	633,674	37.8%
本島市部計	449,349	39.4%
那覇市	147,085	42.1%
うるま市	50,287	35.4%
宜野湾市	45,156	36.6%
浦添市	48,623	44.0%
名護市	29,308	30.8%
糸満市	26,073	31.2%
沖縄市	62,393	41.8%
南城市	17,006	41.8%
豊見城市	25,418	38.4%
本島群部計	126,435	39.8%
国頭郡	27,108	32.2%
国頭村	2,001	35.9%
大宜味村	1,336	33.3%
東村	768	36.1%
今帰仁村	3,678	37.8%
本部町	5,463	28.0%
恩納村	5,244	28.1%
宜野座村	2,409	37.8%
金武町	4,853	30.3%
伊江村	1,905	33.8%
中頭郡	64,035	42.7%
読谷村	16,490	40.5%
嘉手納町	5,152	43.2%
北谷町	12,169	47.3%
北中城村	6,837	46.9%
中城村	9,224	34.7%
西原町	14,163	44.5%
島尻郡	34,743	40.4%
八重瀬町	11,244	42.0%
与那原町	8,259	35.5%
南風原町	15,240	42.0%
離島合計	57,890	20.7%
宮古	76,511	19.9%
宮古島市	25,246	17.2%
多良間村	479	1.7%
八重山	25,393	21.4%
石垣市	22,514	21.1%
竹富町	2,096	22.1%
与那国町	783	28.5%
宮古・八重 以外の離島	6,772	32.6%
久米島町	3,233	45.2%
伊平屋村	518	22.6%
伊豆名村	628	17.8%
渡嘉敷村	351	40.5%
座間味村	466	49.6%
粟国村	351	20.2%
渡名喜村	247	4.9%
南大東村	660	5.3%
北大東村	318	9.4%

※市町村毎の組合員数は、月締めのデータベースをもとに作成しており、年度末決算書の組合員数とは合致しません。予めご了承ください。

組織情報

2023年3月31日現在

名称	生活協同組合コープおきなわ
設立	1976年2月29日
供給高	212.7億円（2022年度）
組合員数	239,790人（2023年3月末現在）
出資金	55.2億円（2023年3月末現在）
職員数	総数1,102人 ※うちフルタイム職員333人
事業内容	（供給事業） 協同購入事業・店舗事業 （くらしのサポート事業） コープ共済・コープハウジング ・コープ葬祭 （くらしの総合サポート事業） 夕食宅配・移動店舗 ・お買い物送迎サービス ・商品お届けサービス
主要施設	24ページ（最終）の 事業所MAP参照
本部所在地	本部所在地 コープおきなわ本部 〒901-2588 浦添市西原1-2-1

はじめに

コープおきなわでは「ともに創る暮らしと未来」という理念のもと、豊かな協同が息づく社会づくりに、組合員や役職員、お取引先、地域の皆さまとの協同の力で取り組んできました。今回の活動報告にあたっては、2015年に国連で採択された「SDGs（持続可能な17の開発目標）」に視点をそろえ、2022年度の活動や事業の内容を掲載しています。

誰ひとり取り残さないという「SDGs」の目指す姿は、生協の理念と重なります。活動の一部ではありますが、皆さまにお伝えできれば幸いです。

コープおきなわの SDGs 基本方針

国連で採択された17の目標のうち、3つの課題を優先的に推進しています。

優先課題 1

エシカル消費を広げます

優先課題 2

誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりへ貢献します

優先課題 3

「二度と家族を戦場に送ることのない平和な暮らしを子ども達へ引き継ぐために」、平和の取り組みを推進します



SDGs (エスディーゼズ) とは

2015年の国連で採択された「持続可能な開発目標」のことです。「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、2030年までに実現すべき課題を17の目標で実現しています。

Sustainable(持続可能な)・・・開発や経済、暮らしがうまくまわること

Development(開発)・・・経済発展におかわせること

Goals(目標)・・・みんながめざすべきところ





エシカル消費を広げます

1. エシカル消費とは「誰かの笑顔につながるお買い物」

「エシカル」(ethical)とは、『倫理的な』という意味を持つ言葉です。生協ではエシカル消費を、「誰かの笑顔につながるお買い物」と表現して、「地域や環境などに配慮したお買い物やサービスを利用すること」を広めてきました。消費者が自分視点だけでなく、「つくる責任、つかう責任」を意識し、地域・環境・社会・人々の4つの視点で、「よりよい社会」＝「持続可能(サステナブル)な社会」の実現をめざします。



消費者がエシカルの視点で商品を選ぶようになると、そのニーズに応える生産者の意識も、自然と同じエシカルな方向へ向くようになります。

もしも、大多数の消費者が「エシカル」な価値を求めるようになったら・・・



提供する側も「エシカル」な商品やサービスに変わっていきます。



(1) コープおきなわで推進するエシカル商品

① コープサステナブル商品

環境や社会に配慮したサステナブル(持続可能)な主原料を使った商品に、共通のロゴマークを付け、4つのテーマでシリーズ化しました。



テーマ1 「海の資源を守る」
原料の魚は、持続可能と認証された漁場で獲られた水産物です。
未来につながる**魚**を選ぶ
CO-OP 骨取り赤魚の煮付け




テーマ2 「森の資源を守る」
森と共生する農園からお届けします。
未来につながる**森**の循環
紅茶ティーパック、アールグレイ、コープヌードル



テーマ3 「大地の力を活かす」
Organic
未来につながる**豊かな大地**
JAS
農薬や化学肥料に頼らず土壌の力を活かし、環境負荷をできるだけ少なくする農法(有機栽培)で作ります。
有機栽培グリーンティーパック、有機えごま油



テーマ4 「リサイクル材使用」
未来につながる**環境負荷を減らして**
製品本体で認証を取得し、かつ環境配慮や省資源につながる使い方・用途を提案します。
再生PET使用 つめかえボトル 500ml用



②社会貢献の寄付金付き商品

CO・OP×レッドカップキャンペーン（期間限定）

飢饉に苦しむ子どもたちに
学校給食を届けるため、国
連WFP協会を通じて、1品
につき1円を寄付する。



対象商品の一例
コープ・アトムしょうゆ

コープの洗剤環境寄付キャンペーン

持続可能なパーム油の生産
等を支援します。商品1品
につき0.5円をWWFジャ
パンへ寄付。（通年）



対象商品の一例
CO・OP セフター
ENERGY（Aナジー）
洗剤・洗剤



障害者ノルディックスキー応援キャンペーン

CO・OP応援食クッキーシリーズ
対象商品1品につき1円を、日本
障害者スキー連盟へ寄付。ジュニ
アチーム活動資金に活用（通年）。



対象商品の一例
応援食ココアクッキー＋鉄分たんぱく質

ピンクリボン運動（期間限定）

乳がんに対する啓発と、
患者や家族への支援。
コープ化粧品1品につき
1円をJ.POSHへ寄付。



対象商品の一例
コープ化粧品シリーズ全品

CO・OP コアノンスマイルスクールプロジェクト

CO・OP コアノンシリーズ
で、1パックにつき1円を
ユニセフを通じてアンゴラ
共和国へ寄付。学校づくり
を支援。



対象商品
やわらか ワンタッチコアノン シングル
130mm×6ロール



スラウェシ島エビ養殖業改善プロジェクト

「ブラックタイガー養殖業改
善協力金」として1点につき
3円が寄付され、養殖地周辺
の環境管理、エビ生産者の研
修等に活用（通年）。



対象商品の一例
CO-OP 黒むき黒車ブラックタイガー
（殻むき取り済み）特大6尾（150g）



③産地・国産素材指定のコープ商品

産地指定

主な原材料に産地や栽培方法が明らか
な国産素材を使用した商品。

対象商品の一例
CO・OP 北海道のそのまま粒豆 250g



国産素材

主な原材料に国産素材を使用している商品。

対象商品の一例
ポークランチョンミート



2. コープおきなわの産直

生産者の顔が見える「産地直結」の取り組みです。生産者と組合員が信頼関係で結ばれ、お互いを支えあい、次世代に続く日本の農業と食糧環境の安全確保にもつながっています。

(1) 産直三原則

①生産地と生産者が明らかである ②栽培、肥育方法（農業・肥料・飼料等）が明確 ③組合員と生産者が交流できる

(2) 産直マップ



3. 地域へのお役立ち

コープおきなわでは“誰一人取り残さない”社会の実現に向けて、福祉の取り組みや子育て支援に力を入れています。

(1) 地域や人とのつながりを大切に

①障がいのある方の就労を支援

コープおきなわが業務委託をしているギフトの箱詰め作業は、平成17年から始まり、現在は太希おきなわから分園した「太陽の町」で行われています。お中元・お歳暮シーズンの年2回ですが、17年以上も続いています。障害のある方が制作した商品の普及を行い、障害のある方の就労を支援しています。



箱を組み立てて、複数の商品を丁寧に詰める就労支援センター太陽の町のみなさん。

②「はじめてばこ」のお届けに協力

沖縄で生まれた赤ちゃん和妈妈のために、RBC主催の「はじめてばこ」へ協賛し、申し込みのあった世帯へお届けしています。

また、同時に「こそだてコープ」への登録を呼びかけ、地域と一緒に子育てを応援しています。



(2) 資源を有効活用

子どもの貧困率が全国一高い沖縄、コープおきなわでは地域のいろいろな団体とつながって、子どもたちや地域への支援活動をすすめています。

①冷蔵商品や日用雑貨品の無償提供

台風で船の到着遅れにより、組合員へお届けできなくなった商品を、「おきなわ子ども未来ランチサポート（※参照）」「フードバンク2h沖縄（※※参照）」や社会福祉協議会へ無償で提供し、各団体を通して地域の子ども食堂や支援を必要としている世帯、施設へお届けしました。

※おきなわ子ども未来ランチサポートとは、沖縄子どもの未来市民会議、日本郵便株式会社沖縄支社、株式会社琉球新報社、(株)おとなワンサードで構成され、沖縄県内の子ども食堂や子どもの居場所等へ食料品の無償提供などの支援活動を行っています。

※※フードバンク2h沖縄は、もったいない食品を中心とした食品を企業や個人から預かり、必要とされる方へつなぐお仕事をしています。



(3) クリスマス食品提供への協力

沖縄労働金庫が主体となり、県内で活躍する流通業のみなさまと協力し、コロナ禍においても、子どもたちが明るく笑顔でクリスマスをお過ごせるように願いを込めて、また少しでも家庭の負担を軽減できるように、ひとり親世帯等に対して、クリスマスの食品提供へ協力しました。

誰もが安心して暮らし続けられる まちづくりへ貢献します

1. 地域社会づくり

“誰もが安心して暮らせる社会や地域”を目指して、行政や諸団体の皆さんと一緒に取り組みをすすめています。

(1) 地域見守り協定

「協同購入の配達」や「夕食宅配（ゆ〜たく）」では、利用する組合員や地域の高齢者の方々など、お届け時に気になる事や異変に気づいた場合、事前に取り決めた連絡先や自治体が指定する窓口へ連絡する活動を行っています。“地域とともに暮らしをよくしていく取り組み”のひとつです。現在41市町村中20市町村（社会福祉協議会も含む）と締結しています。



今帰仁村社会福祉協議会とのみまもり協定締結式の模様

(2) 地域包括連携

県内自治体との協力関係づくりを強め「協同の力で住みよい地域づくり」を目指すための自治体訪問に取り組んでいます。各市町村長との意見交流を通して、買い物や見守りなどの困りごと、食の安全・安心、高齢者や子育て世代への対応など、地域社会づくりの取り組みをすすめています。



(3) 協議体への参加

コープおきなわでは、地域包括ケアシステムに向けた地域づくりの取り組みとして、那覇市、沖縄市など県内各市町村の第一層協議体や第二層協議体にも参加しています。

「地域見守り協定」締結市町村・社会福祉協議会 MAP



締結市町村・社会福祉協議会（締結順）

- ・那覇市・南城市・沖縄市・北谷町・糸満市・名護市・うるま市
- ・宜野湾市・豊見城市・読谷村・嘉手納町・浦添市・西原町・南風原町
- ・中城村・八重瀬町・与那原町・本部町・今帰仁村・東村

1	沖縄県畜産振興公社
2	沖縄子どもの未来県民会議
3	沖縄県食育推進協議会
4	沖縄県女性団体連絡協議会
5	沖縄県食肉公正取引協議会
6	沖縄県シークワサー消費推進協議会
7	那覇市食の健康づくり事業検討委員会
8	沖縄県共同募金会評議員
9	沖縄県セルフセンター評議員
10	沖縄県ボランティア・市民活動支援センター運営委員
11	うるま市名産品選定委員
12	沖縄県小売酒販組合
13	沖縄県食品ロス削減推進県民会議
14	那覇市生活支援体制整備事業第一層協議体
15	沖縄市第一層生活支援・介護予防サービス提供主体等協議会
16	未来に残したい郷土料理検討委員会
17	JICAラオスプロジェクト
18	6次産業化認定委員会委員

2. 見守り活動、お買い物支援、健康づくり活動など

行政や社会福祉協議会、地域包括支援センター、自治会の皆さまと協力しながら、くらしの困りごとに共に向き合い、地域へのお役立ちを考え、お買い物支援を行っています。

(1) コープの夕食宅配(ゆ~たく)

高齢者や産前産後、けがや病気、仕事や育児で多忙な方々等にご利用いただいております。毎日的2,300食をお届けしています。

希望者には緊急時の連絡先を登録する制度もあり、「見守り活動」の役割も担っています。



~コープの夕食宅配での見守り事例~

ゆ~たくサポーター報告より抜粋

お弁当をお届けに伺うと、組合員さんが出てきませんでした。最近弁当が食べられていないことが度々あったので気になり、屋敷の周りをまわって窓から部屋の中を見ると、組合員さんが倒れているのを発見しました。

すぐに救急車を呼び組合員さんは救急搬送されました。しばらく入院することになりましたが、命に別状はなく済みしました。



(2) 移動店舗コープのまちかど便

現在、コープこくば(南部エリア)、コープ美里(中北部エリア)の2店舗を拠点に、生鮮品や惣菜、調味料日用雑貨などの生活必需品を取り揃え地域を訪問しています。



(3) 商品お届けサービス(一部店舗で実施)

コープの店舗で購入した商品の持ち帰りを代行する登録制のサービスです。「持ち帰りの負担がなく買い物ができるので助かる」と喜ばれています。

(4) コープ買物BUS(一部店舗で実施)

高齢者やお買い物が困難な組合員のためのお買い物支援として、コープの店舗の近隣にお住まいの組合員を対象に、コープ店舗までの車の送迎を無料で実施しています。



(5) 健康づくり支援企画

①コープおたがいさま健康サロン

中高年、高齢者の健康づくりを支援するため、コープおきなわと社会福祉協議会、地域包括支援センターなど、地域の協力団体と一緒に取り組んでいる、どなたでも無料でご利用できる地域のコミュニティサロンです。

②オリジナル体操開発

コロナ禍の中、誰もが楽しく運動ができる「さんぽっふ体操」を宜野湾市社会福祉協議会と一緒に製作し、宜野湾市や県内41社協へDVDを贈呈しました。



(6) 有償たすけあいシステム 「おたがいさま牧港」

高齢者の食事づくりや掃除、洗濯や庭の草取り、病院への付き添い、産前産後の家事支援など、

困っている「利用者」と、誰かのお役に立ちたい「応援者」をつなぎ、有償でお互いを支え合うシステムです。



3. 暮らしづくり活動

ふだんのくらしに戻りつつある中で、対面での暮らしづくり活動が増えてきました。企画数は、昨年より31企画増え、46企画となりました。また、参加者も674名増え、942名となりました。各会場で組合員さんの笑顔の輪が広がり、コロナ以前の活気が戻りつつあります。

(1) 仮装して楽しく地域をキレイに

北部ブロックではコープなご宮里5周年に「みんな仮装でごみ拾い大会」を開催し、51名の参加がありました。地域の学童やチアダンスチームの参加もあり、にぎやかで楽しいごみ拾いとなりました。



(2) 親子「食品添加物学習会」

那覇西ブロックでは食品添加物学習会を開催しました。博士（総合推進室職員）によるわかりやすい説明や、お菓子に入っている添加物を調べるなど、親子で楽しく学べる場となりました。子どもたちからは「今度からは商品の裏の表示をみるようになります。」など、一回り成長が感じられる声が寄せられました。



(3) 三日坊主さんのための 一か月運動チャレンジ

宜野湾・中城、浦添市ブロック合同企画で行った企画で、体操を一か月間続けたあとに再び集まり、ビフォーアフターを比較しました。「数値が改善した」という喜びの声や「現状維持にとどまった」など声が寄せられました。



(4) 「資産形成ってなあに？」 「知って得するお金の話」学習会

南部西ブロックと沖縄市ブロックでは、資産形成をテーマに学習会を開催しました。あっぷる保険センターからの提案で、講師の派遣や学習会の内容を組み立てました。組合員さんからは、「お金のことはなかなか人には聞けないので、勉強になりました。」といった声が寄せられました。



4. 募金活動による支援

(1) 2022年度募金概要

募金先	時期	2022年募金額
ウクライナ基金	3月～5月	3,775,885円
平和活動基金	6月～8月	757,828円
フードバンク支援基金		602,308円
おきなわ子ども未来ランチサポート	7月～2月	301,154円
フードバンクセカンドハーベスト沖縄		301,154円
お年玉募金		2,591,736円
・ユニセフ基金一般募金	12月～1月	870,868円
・ユニセフ指定基金(東ティモール基金)		870,868円
・県内ボランティア団体援助(17団体)		850,000円
自然災害緊急募金	2月～4月	2,209,506円
多くの組合員の参加があり、善意が寄せられました。		総額 9,937,263円

(2) 平和活動基金

平和な暮らしを子ども達へとつなぎ、平和について学び考える活動を支援する「平和活動基金」。その財源を確保するために1993年から基金に取り組んでいます。

(3) 自然災害緊急募金

トルコ南部とシリア北部の国境地域で大地震が発生し、甚大な被害を及ぼしました。被災した子供たちとその家族の支援に使われます。

(4) お年玉募金

世界中の子どもたちの健やかな成長と幸せを願い、1984年よりお年玉募金に取り組んでいます。2022年度に寄せられた募金は、日本ユニセフ協会を通して世界の子どもたちや地域のために使われています(ユニセフ一般募金、ユニセフ指定基金)。

また、募金の一部は沖縄県内の児童福祉にかかわるボランティア団体に贈呈しました。

(5) 県内ボランティア団体援助金

コープおきなわが毎年取り組んでいる「お年玉募金」の一部は、「ボランティア団体援助金」として、県内の児童福祉に関わる団体へ5万円ずつ贈呈しています。

援助金の取り組みは2007年度から開始し、累計200団体を支援しました。

【2022年度贈呈先】

名称
1 石垣手話サークル磐の会
2 発達サークル まいれ
3 にしはらこども宅食かなまる便
4 桜並木花友会
5 東風平支え合い委員会
6 ワクワクゆんたく食堂
7 How to SEI
8 宮野湾市うちなみぐち会
9 南都医療センター・こども医療センターボランティアひだまり
10 名護こども食堂
11 ゆいまるの会
12 絵本サークル
13 みんなのあそびば
14 しゅまむに伝承研究会
15 尾納小学校よみかかせサークル「おはなしばこ」
16 うるま市立具志川小学校父母園交通安全指導協力6メソ24α
17 地域おすびくらぶ

(6) 書き損じハガキ回収キャンペーン

世界の飢餓を無くすために活動している特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールドに賛同し、同キャンペーンに2003年度より参加しています。組合員より寄せられた書き損じハガキや切手、商品券等、自宅で眠っている商品は換金され、海外支援活動に充てられています。2022年度の換金額は1,604,981円(協力件数989件)でした。

5. 商品開発による地域おこし

(1) キャリア教育支援

2022年4月～7月の期間、沖縄キリスト教学院大学で、「地域と国際開発論」の講義を行いました。

商品開発を通じて地域社会や途上国で起こる課題を自分ごととして考え、社会に出た際に求められる課題解決能力の育成を図る支援を行いました。



写真
コープおきなわ理事長スタッフの石原さんと生徒の皆さん

地域と一緒に開発した「地域おこし商品」

商品名	地域
Be takes a cakes	中城村
ティードの落とした笑顔の種マンゴ(マンジー)	
ていーだかんかんしふいんジャー	
He is カレー	大宜味村
シークワサー粉 SKS+S	
万能だし旨みだし	
ジャガイモ焼酎ばてちゅう	北大東村
サンウィンIVジェル	
海人自慢のもずく酢	読谷村
骨まで食べられる!ミジュンマース菓	
イカスキょうご置ちゃん	伊江村
イカ星じゅーしーの菓	
いえぎょうざ	
たいもっち	金武町
田芋のチーズケーキ	
ヒラヤーチーの菓 アーサの粉太郎(こたろう)	北中城村
黒糖アガウサーミックス	
黒糖入りもちみど	伊平屋村
泡盛寒風米	
黒糖ソフトクリーム黒糖アイス	
伊平屋を受し、アイスを受す	
トッナーザ(マゴロ餃子)	
島の島の日焼けジャム	
てるしの島の黒糖餅	
コクラまっ! AAアイス	豊国村
黄金シークワサーシャーベット	
もずくコロケ	尾納村
アモザンド	
パッと勢まいる	
ちゅらかふいんカットミルク	うるま市
研高のもずく餃子	
黒糖餅	今帰仁村
もずく団煮	
もずくようかん	伊是名村
たまねぎスープもずく入り	

※現在取り扱いを中止している商品もございます

(2) ラオスプロジェクト

2022年6月～2026年6月まで、ラオス国アタプー県で現地の少数民族や住民、行政と一緒に『貧困改善』『女性の活躍の場づくり』『地方活性化』を目標としたプロジェクトを行います。その資金約9,500万円をJICAの草の根支援パートナー型から支援を受けて行います。

プロジェクトの内容は①美ラオ協同組合のレベルアップ、②新たに3つの協同組合(養蜂、コーヒー、米)を設立します。③それらの体験をラオスの方々と一緒に行う事で、ラオス自ら協同組合が立ち上げられる様にマニュアル整備を行います。

フェーズ1(2017～2020年)での美ラオ協同組合の立ち上げ、日本への輸入、高校生が取り組んだ被災地での学校建設が評価され、菅首相当時、両国首相が調印した【日本とラオス人民民主共和国の戦略的パートナーシップの前進に向けた行動計画】の一文にコープおきなわとアタプー県の取り組みを評価するとあります。

現在では『協同組合法』制定に向けて準備が進められています。

ラオスプロジェクト 新たなステップへ! (前編)→





「二度と家族を戦場に送ることのない平和な暮らしを子ども達へ引き継ぐために」平和の取り組みを推進します

沖縄では過去の戦争ですべてが破壊され、多くの人が亡くなりました。「夫や子どもたちを再び戦場に送りたいくない」「家族を戦争で失いたくない」「子どもたちに平和な世の中を残すために、小さな力でも何かできることはないか」そんな思いがコープおきなわの平和活動の原点です。



平和の取り組み

(1) 6.23ファミリーピースウォーク



太平洋戦争末期の1945年6月23日は、沖縄での組織的な戦いが終わった日とされており、沖縄県は毎年この日を沖縄戦で犠牲になった人々に祈りを捧げ、平和について考える「慰霊の日」と定めています。コープおきなわでは毎年6月23日に「6・23ファミリーピースウォーク」を開催し、「かつての激戦地を歩きながら沖縄戦と平和について家族で考える機会」としています。今年で30回目の開催となる2022年度も、コロ

ナ禍により規模を縮小しての開催となりました。当初50名規模を予定していましたが、70名の参加となりました。今年は、マヤーアブのガイドを実行委員が行いました。実行委員会で必ず伝えるポイントを決め、それぞれの想いをこめてガイドを行いました。

ピースウォークの様子は動画配信され、現地で参加した方と参加できなかった方が画面を通じて平和の思いを共有しました。



(2) ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ

日本生協連と広島・長崎両県生協連との共催で「2022ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」が開催されました。当初現地での代表派遣を予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、動画配信・オンライン配信を活用した形式で開催され、全国から55生協のべ9,100人が参加しました。オンライン子ども平和会議へは、コープおきなわから2名のお子さんが参加しました。



(3) ピースアクション in オキナワ ～沖縄戦跡・基地めぐり～

3月23日から25日にかけて、日本生協連・沖縄県生協連共催の「ピースアクション in オキナワ 第40回沖縄戦跡・基地めぐり」が開催されました。全国の生協の仲間が沖縄に集い開催する企画としては4年ぶりの開催となりました。学習講演会では、実参加71人、オンラインでも220人の参加がありました。



QRコードから動画を見ることができます。

(4) 店舗でのパネル展示

①宮森小学校ジェット機墜落事故パネル展（コープ美里）

1959年に発生したジェット機墜落事故から63年。平和グループ「ソーミナー」とうるま市ブロック共催で、「宮森小ジェット機墜落事故パネル展」・「忘れないでなかよし地蔵のおともだちを紙芝居展示」を開催しました。



②原爆と人間展（コープあっぷるタウン）

77年前のきのこ雲の下での出来事とヒバクシャの思いを伝える「原爆と人間展」を開催しました。全国の生協と共に取り組んだ核兵器の廃絶を世界に呼びかけた「ヒバクシャ国際署名」は、核兵器禁止条約発効（2021年1月）の大きなきっかけとなりました。



③沖縄戦パネル展（コープあっぷるタウン）

沖縄戦を知り平和について考えてもらおうと、「沖縄戦パネル展」を開催し、同時に平和についての思いをメッセージとして寄せてもらいました。



(5) 沖縄戦体験者の聞き取り活動

戦後76年の取り組みとして、沖縄戦体験者の生の声を聞き、多くの親子が「平和とは何か」を考えるきっかけにしておうと、聞き取り活動に取り組んでいます。今の子どもたちが身近に感じられるように、戦中や戦後にかけての生活、教育、文化、知恵など、日常生活に関わることも伝えていきます。



(6) 福岡とつながろう!今こそ考えよう「平和」

～ひめゆり平和祈念資料館オンライン展示ガイドツアー～

「今こそ平和について考えよう」と、エフコープ（福岡）とコープおきなわの合同企画による平和学習が取り組まれました。今回は、2021年4月にリニューアルした『ひめゆり平和祈念資料館』のオンラインツアーを開催。エフコープから28名、コープおきなわから28名、小中学校の子どもたちも参加しました。



(7) 安保3文書学習会

琉球大学准教授の山本章子さんを講師に迎え、国会決議を経ずに閣議決定された安保3文書について、わかりやすく解説いただきました。県外生協からのオンライン参加もあり、関心の高さがうかがえる講演会となりました。参加者64名 会場参加者：26名（平和委員、運営者6名含む）Zoom参加37名



持続可能な社会の実現に向けて



青い海と緑の島々の多様で豊かな沖縄の自然を大切に、組合員と職員が一体となって、地球温暖化の防止など環境保全の活動に取り組み、持続可能な社会の実現に寄与します。食料品を中心とした商品の供給および共済や各種サービス事業を組合員に提供していることを踏まえ、事業活動、商品、サービスから発生する環境影響の大きな項目について、環境目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境負荷の低減・汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。環境関連の法令・条例・受け入れを決めたその他要求事項を順守します。

1. 環境活動

(1) 食品廃棄物の肥料化

農業生産法人あらぐさとコープおきなわは、2002年2月からコープのお店から出る生ゴミを原材料に作られた有機たい肥を農家に供給し、農家が生産した野菜をコープおきなわのお店で販売する、資源再生循環システムに取り組んでいます。この取り組みは県内第1号となる国の再生利用事業計画にも認定されています。



(2) ハロウィンゴミ拾い大会 & なご宮里周年祭

ハロウィンごみ拾い大会では、親子51名の参加にぎわいました。当日は思い思いの仮装で楽しくゴミ拾い。同時にコープなご宮周年祭では、チアダンスチームメンバーとコープすけが駆けつけて盛り上げました。



(3) 行政の環境教育活動に協力しました。

県民環境フェア「エコライフ&ネイチャーフェア2022」にコープおきなわ環境推進委員会がブースを出展しました。

ブースでは環境配慮商品の紹介、コープでんきの取り組み紹介、環境推進委員会の活動紹介などパネルの展示、商品の展示を行いました。また同時に木炭そばづくり体験を行い会場で募集した14家族41名(大人19名・子ども22名)が参加しました。



2. 環境マネジメント報告

2030環境・サステナビリティ政策の2年目となり、事業で排出する温暖化効果ガス(主にCO₂)の46%(2013年度比)の削減を目指して、2022年度もエネルギーの総量削減の活動とともに、リサイクルの活動も継続しました。

2022年度は新型コロナ禍の中で、需要増と感染対策でのエネルギー増加を極力抑え、省エネ活動の結果、温暖化効果ガスの総排出量を736トン削減、事業高1億円当たりでも2.2トン削減することができました。

(1) CO₂(二酸化炭素)削減の推移

	単位	実績			
		22年度	21年度	20年度	19年度
CO ₂ 総排出量	t	10,618	11,356	11,522	11,372
事業高1億円当たりのCO ₂ 排出量	t	49.9	52.1	51.4	59.3
2013年度比	%	69.8	74.6	75.9	78.0

※2030年度までに、2013年度比で46%の削減をめざします。

(2) エネルギー・資源の使用状況

項目	単位	22年度	21年度	前年比
電気	kwh	12,711,378	12,884,913	98.7%
ガソリン/車両	L	203,940	173,739	117.4%
軽油/車両	L	306,728	253,787	120.9%
LPG/車両	mf	7,096	8,277	85.7%
LPG/事業所	mf	39,325	44,242	88.9%
都市ガス	mf	180,673	189,442	95.4%
紙	kg	14,964	15,373	97.3%

※電気・ガス・車両燃料は、子会社等を含みます。

(3) リサイクル活動

項目	単位	22年度	21年度	前年比
牛乳パック	t	12.6	16.7	75.4%
カタログ	t	1,133.6	1,089.6	104.0%
食品残さ	t	165.3	192.0	86.1%
レジ袋持参率	%	79.0	78.5	100.6%

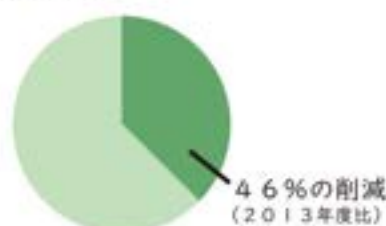
3. 2023年度に向けて

2003年のISO14001の認証を受けて以来、環境方針を掲げ、様々な環境を守る活動に取り組んできました。今後、早急な対応が求められる環境問題に取り組むため、環境方針を改訂し、2021年度から実施しています。

(1) 「脱炭素」を目指す取り組みのポイント

全国の生協と連携し、2050年の脱炭素を目指し、2030年までの温室効果ガス（主にCO₂削減）の10ヵ年計画を2021年度から実施しています。その達成に不可欠な再生可能エネルギーの普及と事業で使用するエネルギーでの活用を子会社である「おきなわコープエナジー」の事業を通じて推進していきます。

※2030年温室効果ガス削減計画
事業でのエネルギー使用量の削減と再生可能エネルギーの活用により、2030年までに、コープおきなわとして、2013年度比で46%の削減をめざす計画



CO₂削減（脱炭素）に向けた取り組み

おきなわコープエナジー

再生可能エネルギーの普及促進
コープの発電所となる太陽光発電設置を無償で設置

再生可能エネルギー活用
国の固定価格買取制度が終了した太陽光発電の余剰力の買取り（281世帯と契約）

組合員を対象にソーラーパネルを無償で設置。2023年3月末時点で132台を設置。

コープでんき契約者から買取り、県内で有効に活用（組合員へ提供）します。2023年度末時点で1,734件契約。

(2) 廃棄プラスチック問題への対応

事業用資材および組合員に供給する商品の容器包装に使用するプラスチックの削減をさらに計画的に進めます。

※廃棄プラスチック等の削減計画
2030年までにプラスチック25%削減（2018年度対比）・紙25%削減（2021年度対比）をめざします。

ラベルフィルムを省くことでプラスチック使用量を削減

1本で	1ケース（24本）で	1本で	1ケース（24本）で
0.83gのプラスチック削減	19.9gのプラスチック削減	0.8gのプラスチック削減	19.2gのプラスチック削減
ラベルのないハト麦入りさわやかブレンド茶ノンカフェイン		ラベルのない遠茶（国産6茶大使用）	
もし1年間54万ケース※販売したら 約10.7tのプラスチック削減		もし1年間33万ケース※販売したら 約6.3tのプラスチック削減	

軽量ボトルとラベルレスで、ペットボトル飲料で国内初のエコマーク認定を取得！

※開発時点での目標削減数量です。

(3) 環境方針

- ①地球温暖化を防止するために、事業で使用する電気やガス、車両燃料などのエネルギー使用の削減をすすめるとともに、再生可能エネルギーの普及および活用に努め、CO₂排出削減に取り組めます
- ②環境に配慮した商品の開発・普及に取り組むとともに、プラスチック等の容器包装の削減をすすめます
- ③事業で排出する廃棄物の削減とリサイクルを図ります
- ④組合員への環境教育をすすめ、組合員による環境保全活動を支援します
- ⑤地域の諸団体と連携し、組合員とともに環境保全型社会に向けた活動に取り組めます

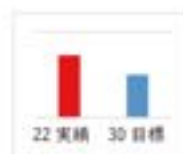
以上の活動を進めるために、定型教育・広報・会議等により、全職員に対する教育・啓発を積極的に行います。この環境方針はコープおきなわ内外に公表するとともに、環境活動の取り組み状況を定期的に公表します。

4. 「生協の2030環境・サステナビリティ政策（コープおきなわ版）の取り組み

「生協の2030環境・サステナビリティ政策」は、持続可能な社会を実現するために全国の生協で推進する2030年度までの政策です。コープおきなわでも5つの優先課題を設定し、全国の生協の仲間とともにすすめています。

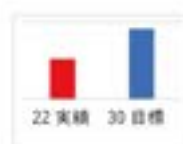
1. 2022年度の取り組み報告

目標1 エシカル消費対応商品の企画が協同購入157アイテム（週）、店舗では145アイテムと大きく伸長し、2030年度までの到達目標100アイテムを達成しました。くらしづくり活動では、総代やコープ会メンバー、各種交流会等でエシカル消費対応商品の紹介を行いました。



目標2 CO₂排出量は2013年度比30%の削減となりました。電気やガス使用量の適正化、協同購入での配達コース効率改善などの実践により、2022年度目標である2013年度比22%削減を上回りました。2030年度までの到達目標46%削減に対して、65%の到達状況となりました。

*沖縄電力とおきなわコープエナジーのCO₂排出係数が下がったため



目標3 2,157KWの再生可能エネルギー開発と利用を実現しました。組合員宅（戸建て）への太陽光発電設備設置や、卒FITの買い取りをすすめ、2022年度目標である550KWを上回りました。2030年度までの到達目標5,000KWに対して43%の到達状況となりました。



目標4 プラスチック容器包装を4,996Kg削減しました（2018年度比5.7%削減）店舗ではマイバスケットを推進し、レジ袋削減をすすめました。また、エコトレイを一部導入しました。プラスチック容器包装の2030年度までの削減目標25%に対して、22%の達成状況となりました。



目標5 店舗では食品ロスを26.1%削減しました（2019年度比）AIの活用による在庫削減に加え、生鮮製造管理の徹底で廃棄削減をすすめました。患方巻ロス削減の取り組みとして、組合員へ予約注文へのご協力をポスター等で案内しました。機関紙ういずこーぶでは、旧盆前に「重箱料理リメイクレシピ」を掲載しました。

2. コープおきなわ 5つの優先課題と2030年までの到達目標（主な取り組み計画）

●5つの優先課題		●2030年度までの到達目標(主な取り組み計画)	
目標1	エシカルを学び広げます	①エシカル消費に対応した商品品揃えを100アイテムまで増やします。	②エシカル消費に共感し、選定する組合員を増やします。
目標2	CO ₂ 排出量を46%削減します(2013年度比)	①商品セットセンターなど、事業所の使用電力を削減します。	②業務車両の電気自動車への切り替えをすすめます。
目標3	5,000KWの開発と利用を、コープエナジーとともにすすめます	①生協の事業所、組合員宅への太陽光発電設備の設置をすすめます。	②組合員からの太陽光発電の買い取り・利用(*卒FIT)を推進します。 *卒FITとは、固定価格買い取り制度(FIT制度)の買取期間が終了した案件のことです。
目標4	プラスチック容器と紙を25%削減します(2018年度比)	①使い捨てプラスチック製容器包装を再生プラスチック包材や植物由来包材への切り替えをすすめ、2018年度比で25%削減します。	②商品カタログに使用する紙使用量を、eフレンズの推進やカタログの選択制配布などをすすめ、2021年度比で25%削減します。
目標5	組合員の家庭や事業で生じる食品廃棄物、食品ロスを50%削減します	①循環型野菜への活用などで、事業所からの「食品廃棄物ゼロ」をめざします。	②組合員とともに「てまえどり」やフードドライブなどを推進します。

多様な人材が働く元気な組織



生協では、障がいのある人も、障がいのない人も、ともに働ける職場づくりをさらに推進します。また様々な雇用形態、各ライフステージの職員が生きがいを持って働き続けられる組織を目指した取り組みも進めています。

1. 障がい者雇用率（10％）

2023年8月現在、コープおきなわのグループ全体で82名の障がいを持つ仲間が様々な分野で活躍しています。（グループ会社も含め、コープおきなわ全体の障がい者雇用率は10.3％。法定雇用率は2.3％）。

障がいの有無に関わらず活躍できる場を広げ、適正な賃金で働ける場を提供することで誰もが元気に、笑顔で働ける社会づくり（生協づくり）に取り組んでいます。

下記ポスターをコープおきなわの各店舗・センターなどに掲示して障がい者雇用への理解を求めています。



2. 一般就労へのモデルケース

就労継続支援A型事業所㈱ハートランドおきなわを入り口に利用者として訓練し、働くことに慣れたら特例子会社㈱ハートコープおきなわで働いてもらう。そこで力をつけたらコープおきなわや他企業に一般就労する。この7年間で一般就労に移行した人数は26人にもなりました。

コープおきなわの障がい者雇用の基本的な考え方



3. グループ会社

㈱ハートコープおきなわ（特例子会社）

県内企業としては初めて障がい者雇用に特別な配慮をした会社「特例子会社」の認定を受け、社員7名でコープおきなわ店舗惣菜部門の唐揚げ・トンカツ等の下ごしらえ作業、畜産部門の加工作業を請け負っています。



㈱ハートランドおきなわ

（就労継続支援A型事業所）

コープ首里とコープこくば、コープ山内のベーカリー事業や施設外就労（商品セットセンター内作業）を通じ、障がいのある人の就労訓練を行っています。2023年8月現在社員22名、利用者※33名が在籍し、一般企業での就労をめざして訓練に励んでいます。



㈱コープ沖縄サービス心耕部

西原町のコープおきなわ商品セットセンター内に就労継続支援B型事業所を開設し、障がいのある方とともに水耕栽培に取り組んでいます。



生協で働く私たちが大切にしたいこと



生協で働く私たちは、組合員の暮らしへのお役立ちができる生協を目指し、沖縄の社会環境の変化にも対応していきます。組合員の声を聴くことを大切に、生協で働くことの意味を大切にします。

1. 職員の考動指針 ※考動とは、「今、何をすることが必要なか」を、自分の頭で考え、行動すること

私たちは、一人ひとりの組合員に喜ばれ、「生協があってよかった」と思ってもらえる仕事をします。

1. 組合員の声を素直に聴きます
2. 事実に基づいて判断します
3. やると決めたことは、確実にやりとげます
4. お互いを認め合い、協力し合います
5. 常に学び成長することを大切にします
6. 正直と思いやりを大切にします

2. コープおきなわの人事制度の骨子

職員の仕事の目的は、組合員の暮らしのお役に立つことです。それがやりがいとなり、「生協で働いて良かった」という喜びにつながります。

一人ひとりの職員が、仕事を通して成長し、力を発揮できる制度

役割による人事制度

- ◎フルタイム、パートナー共通の制度
- ◎役割・働き方（雇用形態）・職種が変えられる3つのチャレンジ制度

役割と働き方に応じた賃金制度

- ◎役割と働き方に応じた賃金制度で、同一価値労働同一賃金をめざす
- ◎賃金格差縮小とパートナー処遇改善

プロセスも重視する評価制度

- ◎「気づき」と成長を促す評価制度
- ◎成果だけでなく、考動指針の実践やチーム力発揮など役割に見合う行動も評価

共育制度の充実 ※共有：19ページ参照

- ◎人間力が高まることをめざす共育
- ◎チームでの教え合い、学び合いを重視
- ◎キャリア自律



お仕事を知りたい方へ



◆採用情報 HP

「コープおきなわ採用動画」ひとまとめサイト



3. 共育制度の充実 ※共育：人が育ちあう取り組みのこと。共に学ぶことを大切にします。

職員が「働きがい」を感じ、仕事を通して個人の成長と組織の成長が実感できる取り組みを推進しています。また、元気に働き続けられる職場づくり、時代の変化に対応した人づくり（人財育成）を強化し、継続的に推進しています。

(1) 次世代育成支援・女性活躍推進

職員一人ひとりが能力を発揮し、仕事と家庭の調和を回り働きやすい雇用環境の整備を行うため、行動計画を策定し取り組んでいます。育児休業取得率向上や、くらしの環境に配慮した短時間勤務への転換などのほか、フルタイム職員の男女比率を意識した採用活動を行っています。



コメント

「妊娠中も職場復帰後も、温かい声かけやサポートがあり、安心して働くことができています。子どもをもつ母として、『この先もずっと働き続けたい』と思える職場です。」

(2) 新入協職員研修

生協の理念や歴史、事業を広く理解し、働きがいと共に自らの言葉で生協の存在価値を語る職員の育成に取り組んでいます。



(3) メンター制度

新人職員が仕事や職場環境に慣れることを支援するために、先輩職員が日常的に相談役となる制度です。メンターとなる先輩職員は継続的にメンタリングを実施することでリーダーに必要な初期マネジメントを習得します。



(4) 登用制度・チャレンジ制度

意欲があり、成長したい職員には自ら手を上げて、やりたい仕事、部署や職種にチャレンジできる制度があります。

(例) 登用制度、職種・役職チャレンジ

テーマに沿ったレポートを作成し内容が優秀な場合は表彰研修へ派遣される「チャレンジレポート」を実施しています。



※画像は2019年に実施した香港マカオの研修です。
※2020年度・2021年度はコロナ禍で表彰研修は中止。

(5) 通信教育の受講 / 資格取得の補助

1年目～5年目の若手職員を対象とした、日生協通信教育を実施。(延べ101名受講)食の安全や商品基礎知識に加え、リーダー、マネージャーに求められるマネジメントを体系的に学びます。専門的な知識を学び、事業に貢献することを目的に、資格取得の補助を行っています。

(例1) ファイナンシャルプランナー、販売士、日商簿記検定、行政書士など

「2021年度にコープハウジングに異動し、FP3級、建築を学び、施工管理技士補2級を取得しました。数年経験を積んだら施工管理技士2級の受験資格を得るので、その間に福祉住環境コーディネーター取得を目指します。子育てに追われての独学は大変ですが、妻の支えもあり工夫して時間を作っています。」

コープハウジング古墅 陸男さん

(例2) 放送大学を卒業されました。

「20代の頃に進学か就職か迷いながらも、就職することになりました。40代後半になった頃、子育てがおわり妻も働き始めたため、週末は一人で過ごすことが多くなりました。この時間を使って何かできないかと、大学進学を真剣に考えるようになり、放送大学と出会いました。」

「やって良かったと思うことは、時間を持て余し、何となく1日が終わった、という日が無くなりました。また、学ぶ中で、人生で始めて知ったことや、長年の疑問が解けた時は感動でした。」



総務部 国吉 真彦さん

(6) 表彰制度

考勤指針(18頁を参照)にそった事例や組合員に喜ばれた考勤を推薦、表彰する制度があります。

	22年度	21年度	20年度	19年度	18年度
チャレンジ表彰	25	4	29	67	7
声に応えて	1	0	0	0	0
キラリ☆表彰	414	503	437	432	431
本部長表彰	75	85	83	83	130
特別表彰	0	0	7		
合計	515	592	556	582	568

基準にもとづく検査と点検で、商品の品質を確認します



コープおきなわ開発商品や産直商品を中心に組合員の視点で「食の安全・安心」の確保に向けた取り組みを行いました。各種点検では「リスク管理や食品防御」を継続強化し、安全確保の確認では、食品添加物検査、残留農薬検査、動物用医薬品検査、DNA検査（遺伝子検査）、食物アレルギー検査、微生物検査など、日本生協連、エフコープ、ビジョンバイオ㈱の協力のもと取り組みました。

< 商品検査センター > ～ 2022 年度品質管理・検査概要～

総検査検体数 : 5,940 検体
のべ検査項目数 : 19,719 項目
工場点検数 : 25 社 79 回
産地点検 : 11 産地 25 回
流通点検 : 5 箇所 11 回
店舗点検数 : 9 店舗 245 回



検査分類別 品目・項目数一覧 (2022年度)

	検査分類	品目数	項目数
微生物検査	定期・抜き取り・保存検査	1,471	7,323
	事前検査	23	118
	お申し出検査（微生物のみ）	20	105
	内部検査	464	2,132
	抜き取り検査	449	1,796
	再検査	3	9
衛生検査	ATP、フードスタンプ	2,857	5,497
理化学検査	食品添加物検査	7	12
	残留農薬検査	4	1,444
	動物用医薬品検査	5	630
	DNA 検査（肉種、米種）	9	25
	食物アレルギー検査	1	2
品質検査	内容量検査	628	628
	合計	5,940	19,719

1. 微生物検査

約束どおりの衛生的環境で製造管理が行われているかミクロの視点でチェックを行います。食品に含まれる一般生菌数や大腸菌群（汚染指標菌）を調べることで、製造工程の「衛生的レベル」を確認し、食中毒菌（サルモネラ属菌や腸炎ビブリオなど）を調べることで、食中毒などのリスクに対する「安全性」を確認します。

(1) 定期・抜き取り検査・保存検査

（年間検査数 1,471 品目 / 7,323 項目）

協同購入商品の抜き取り検査では、定期検査や期限表示最終日まで保存して確認する保存検査など、コープおきなわ開発商品や産直商品を商品セットセンターから抜き取り、毎月、確認を行いました。

店舗商品の抜き取り検査では、店舗で加工した鮮魚（刺身）、弁当・惣菜、カットフルーツなど、そのまま食べる食品や産直の生鮮品を中心に各店舗から抜き取り、HACCPの視点でモニタリング検査を毎月、行いました。



(2) 事前検査（年間検査数 23 品目 118 項目）

新規で取り扱う商品を前もって検査することで、取引可能な衛生レベルにあるか確認し、場合によっては、改善指導を行います。協同購入や店舗等で取り扱う商品の期限見直し、安全性の確認を供給する前に行いました。

(3) ふきとり検査

（年間検査数 449 カ所 / 1,796 項目）

全店舗の生鮮 2 部門（水産・惣菜）の食材や加工する施設（インスタア）調理器具、加工者の手指などを検査することで、汚染源や汚染の流れを確認します。

コープ九州も生協で統一のふき取り調査を行い、衛生強化をはかりました。

取り組みの成果として、各部門が加工中の汚染防止を考えて対策に取り組むことで、衛生面が向上しました。



(4) 内部検査 (年間検査数 464 品目 / 2,132 項目)

微生物検査の精度管理や店舗の製造環境の調査を行います。微生物検査の精度管理(外部精度管理:年1回、内部精度管理:毎月1回)を行い、検査技術の向上に努めました。くらしのサポートセンターでは、夕食宅配弁当、まちかど便(こくば、美里)の定期調査を行いました。

(5) フードスタンプ検査

(年間検査数 2,640 力所 / 5,280 項目)

全店舗の生鮮3部門(水産・畜産・惣菜)で前日の洗浄殺菌がしっかり行われているか確認します。最も重要なポイント(まな板、包丁など主要な調理器具)を毎月220力所確認することで、各店、各部門の殺菌洗浄強化ポイントを把握・改善してもらいました。取り組みの成果として、全店舗がきれいな状態を維持・向上することができました。



(6) ATP 検査 (年間検査数 217 力所)

微生物やたんばく汚れなどを数値で確認します。店舗の生鮮部門職員を対象に、個人毎に手洗いの癖を学習した上で、手洗い技術を競い合う「店舗手洗い選手権」を継続して開催しました。取り組みの成果として、手洗い場の衛生環境がとて良くなり、手洗いも安定した洗浄が行われていました。2022年度上級コースを卒業した21名を新たに「手洗いマイスター」として認定、今後は店舗の新人職員や手洗いの苦手な職員の指導にもあたり、更に店舗の手洗いレベルがアップするように取り組みます。2022年度現在、手洗いマイスターは207名となりました。今年度は83%の職員が医療機関の手洗い基準をクリア、100%の職員が食品企業の手洗い基準をクリアし、店舗全体の手洗いが高いレベルで推移しました。



2. 理化学検査

開発商品や産直商品が食品衛生法や農薬取締法、ポジティブリスト制度などに適合しているか、コープおきなわとの約束通りの製造になっているか確認します。

(1) 残留農薬検査

(年間検査数 4 品目 / 1,444 項目)

コープおきなわの産直野菜(サラダ菜、人参、玉ねぎ、ブロッコリー)などで、ポジティブリスト制度や食品衛生法などの基準を超える残留がないか確認しました。

(2) 動物用医薬検査

(年間検査数 5 品目 / 630 項目)

抗生物質、合成抗菌剤、ホルモン剤、寄生虫駆除剤などがあります。産直豚肉(うちな〜とこ豚)、鶏肉(やんばる若どり、コッコ)や産直たまご(赤・白)などに基準を超える残留がないか、自主検査と取引先の検査結果で確認しました。

(3) 食品添加物検査

(年間検査数 7 品目 / 12 項目)

開発商品が食品衛生法やコープおきなわ自主基準に適合しているか確認しました。

(4) 食物アレルギー検査

(年間検査数 1 品目 / 2 項目)

アレルギー症状の健康被害が発生しないように、食品表示と異なる特定原材料(乳、小麦、卵、落花生、そば、えび、かに)が含まれていないか確認しました。

(5) DNA 検査 (遺伝子検査)

(年間検査数 9 品目 / 25 項目)

肉種(牛豚あいびきパラパラミンチ、ポークランチョンミート、うちな〜とこ豚あらびきウィンナー)など判別の困難な製品、特にすり身状態になる)や米種を中心に他品種の混入がないか確認しました。

(6) 品質検査 (内容量検査)

(年間検査数 628 品目 / 628 項目)

計量法第75条に規定された誤差(量目公差)以内で検査し、規定を越えた量目不足の商品がないか確認しました。

3. お申し出品検査

2022年度、品質管理室へ寄せられたお申し出商品は9件でした。内訳は、有症申告1件（製品異常なし）、異物混入3件、異味・異臭5件（内、3件の製品異常を確認し、原料管理の強化を要請しました）。製品異常が確認された件数は、昨年と同数、有症申告および異・異味・異臭などのお申し出は、1件の減少となりました。特徴として、原料保管と加工段階で問題が発生している為、製品管理について注意喚起を行いました。

4. 点検関係

今年度もコロナ禍での点検となった為、工場や産地等への感染防止を徹底し、短時間で終了するように努めました。

(1) 工場点検

開発商品を製造している取引先工場の「仕様書点検（約束事の確認）」、日本生協連を含む全国の生協で実施している「食品防御（フードディフェンス）」の視点を盛り込んだ「製造環境・管理（トレース、食物アレルギー等）」の点検を、18社を対象に実施しました。その他、旧益・お正月の重箱やオードブルの工場点検など、臨時に7社、年間合計25社の工場点検を行いました。



(2) 産地点検

産直野菜の4産地と産直豚や産直鶏、産直たまご産地交流米など、7産地について、日本生協連とコープ九州の「適正農業規範」を活用して「農産物品質保証システム点検」として、理念・コンプライアンス・マネジメント、栽培・収穫の工程管理、農薬・肥料の使用と保管、作業場の衛生管理、防疫への取組など「9の視点」で点検を行いました。



(3) 流通点検

産直野菜や産直豚、産直鶏、産直たまごが流通過程で加工選別される5施設について日本生協連の「適正流通規範」を活用して「農産物品質保証システム点検」として、理念・コンプライアンス、作業管理、備品・薬剤の管理、運送管理、環境配慮など「12の視点」で点検を行いました。

(4) 店舗インストア点検

店舗の調理加工施設で、製造を行う職員の健康管理から製造環境や商品管理等が適正に行われているか、年2回、9店舗34部門で行いました。各店舗の取り組みを交流し、製造環境の改善が前進しました。

(5) 店舗パトロール

「商品表示」や「品質管理（期限、温度、衛生など）」に問題がないか、毎月9店舗を巡回してモニタリングおよび改善指導を行いました。新人職員を中心に店舗パトロールに同行してもらい、商品の期限管理、適正な表示、温度管理について説明しながら、教育も兼ねて確認を進めました。

今年度も店舗パトロール、店舗インストア点検については、電子タブレットを使用した点検を行い、点検結果報告と各店舗・部門からの改善報告等紙を使用せず、クラウド上で完結出来るように取組み、効率が向上しました。



点検分類別件数一覧（2022年度）

点検関係	件数
工場点検（仕様書点検）	19
工場点検（製造環境、管理）	22
工場点検（トレース点検）	19
工場点検（アレルギー点検）	19
産地点検（野菜、豚、鶏、卵）	25
流通点検（野菜、豚、鶏、卵）	11
店舗インストア点検関係	98
店舗パトロール（商品管理、表示）	147
合計	360

協同購入事業

品質や安全性、おいしさを考えた食料品を中心に、日用雑貨品などの商品を掲載したカタログから、注文紙やインターネットを介してご注文いただき、県内に8カ所の事業所（本島5カ所、離島3カ所）から毎週決まった曜日、時間、指定された場所へお届けしています。商品の受け取りはグループ利用、個別利用など、組合員のライフスタイルに合わせてお選びいただいています。

また、プレイガイド、図書カード、花宅配、水宅配、車検、布団丸洗いや打ち直しなどを取り扱っており、子育て世代、高齢世代、お勤めて忙しいご家庭などのくらしを様々な商品やサービスで応援しています。



くらしのサポート事業

コープ共済

組合員のくらしを守るために生まれたコープの共済。2022年度は新たに12,708人の組合員が加入し、加入者総数は14万5千人に広がりました。

「共済金のご請求忘れはありませんか？」のお知らせ活動もあり、昨年1年間で総額34.3億円をお支払いすることができました。手軽な掛金と充実した保障で組合員のくらしに貢献しています。



コープ共済センター
ご加入・契約変更など ☎ 0120-50-9431

コープハウジング

増改築、クーラー清掃など、小さなことでも相談できる住まいのパートナーとして、住まいの困りごと解決のお手伝いをしています。

2020年から、急な修繕やリフォームに備える積立制度「リフォーム積立」。仕上がりを現場でリアルに体感できる「モデルルームこくば」もオープンしました。



店舗事業

コープおきなわのお店は本島内に9店舗。組合員の声に応じて商品を品揃えしており、生産者の顔が見える農産品や組合員と開発したオリジナル商品などを扱い、毎日のお買い物にお役立ちできる店づくり、活動の場としても利用され、地域のコミュニケーションを深めています。



コープ牧港の店内

コープ葬祭

葬儀に関する事前の学習会や相談会を開催しています。近年増えている家族葬への対応も行っています。

2019年4月には、「家族に負担をかけたくない」という組合員の思いへ応え、もしもの時へ備える「葬祭積立」が始まりました。

2020年11月にはコープ葬祭「ひやごんホール」がオープンし、お通夜、直葬、家族葬、一般葬まで幅広くご利用いただいています。



くらし総合サポート事業

夕食宅配は増え続ける組合員のニーズに応えます。また、移動店舗「コープのまちかど便」と「買物BUS」では、超高齢化社会に向き合い、地域の諸団体と連携して、消費者の買い物などの困りごとに応えます。



グループ会社

コープおきなわには5つのグループ会社があり、生協では扱えない事業分野などで、組合員・消費者の暮らしのお役立ちをすすめています。

株式会社あっぷる

所在地 あっぷるタウン 3F(那覇市おもろまち)
事業内容 損害保険代理店・生命保険代理店
主な業務 組合員の保障全般をサポートするために、生協では扱えない保険分野を担っています。

株式会社コープ沖縄サービス

所在地 コープおきなわ商品セットセンター内(西原町兼久)
事業内容 一般貨物自動車運送事業など
主な業務 協同購入や後方支援(商品セットなど)の業務を受託しています。2021年度には就労継続支援B型事業所を開設し、野菜の水耕栽培事業を開始しました。

株式会社ハートコープおきなわ(特例子会社)

所在地 コープあっぷるタウン(那覇市おもろまち)
事業内容 障がい者の社会参加と自立を支援
主な業務 コープおきなわ店舗の惣菜原料の加工や店舗支援業務などを担っています。

株式会社ハートランドおきなわ(就労継続支援A型事業所)

所在地 コープ首里ベーカリー(那覇市首里) コープこくばベーカリー(那覇市国場) コープ山内ベーカリー(沖縄市南桃原)
事業内容 障がい者の就労機会の提供および生産活動にかかる能力向上を支援
主な業務 パン、惣菜の製造など行っています。

おきなわコープエナジー株式会社

所在地 コープおきなわ本部内(浦添市西原)
事業内容 再生可能エネルギーに関する事業、電気小売り事業、ガス・灯油等の販売、電気通信事業など
主な業務 組合員および事業所、取引先などへ電力小売りや自治体とも連携し、再生可能エネルギーの普及・活用を行っています。

コープおきなわ事業所案内

店舗

- 1 **あっぷるタウン** ☎098-941-8020
〒900-0006 那覇市おもろまち 3-3-1
- 2 **コース首里** ☎098-887-5633
〒903-0806 那覇市首里汀良町 3-104-1
- 3 **コース春川** ☎098-882-2334
〒903-0826 那覇市首里春川町 2-80
- 4 **コースあろく** ☎098-857-0069
〒901-0151 那覇市読原町 34-21
- 5 **コースこくば** ☎098-831-8400
〒902-0075 那覇市国場 368
- 6 **コース牧港** ☎098-875-3466
〒901-2131 浦添市牧港 4-3-15
- 7 **コース山内** ☎098-932-1755
〒904-0035 沖縄市南桃原 4-1-1
- 8 **コース美里** ☎098-939-9998
〒904-2155 沖縄市美里 4-29-1
- 9 **コースなご宮里** ☎0980-43-0575
〒905-0011 名護市宮里 1-28-8 南西ビル 1F

協同購入

- 1 加入受付ダイヤル ☎0120-581-372
月～金 9:00～20:00
- 1 名護センター
名護市大北 4-23-14
- 2 具志川センター
うるま市宇川崎 69-1
- 3 浦添センター
浦添市西原 1-2-1
- 4 西原センター
西原町兼久 287-1
- 5 豊見城センター
豊見城市守上田 54-1
- 6 宮古センター
宮古市平良東洋町 393-14
- 7 石垣センター
石垣市浜崎町 1-2-4
- 8 久米島センター ☎098-985-4964
大～金 9:00～19:00
島尻郡久米島町字津台 1212
- 9 商品セットセンター ☎098-945-1311
〒903-0104 中城郡西原町字兼久 287-1
- 10 コープあぷれ 0120-800-982
月～金 10:00～18:00

配達専用ダイヤル
組合員
サービスセンター

お問い合わせ
☎0120-822-502
月～金 9:00～20:00
☎098-946-1222

ご注文専用
☎0570-050-502
月～金 9:00～20:00
☎0570-014-502

一部、IP電話から
☎098-946-1222
●夜間 月～金 9:00～20:00
☎0570-014-502

くらしのサポート他

- 夕食宅配(ゆ〜たく) 0800-200-8300
月～金 9:00～17:30
- 移動店舗
コープのまちかど便 月～金 10:00～17:00
- 1 コープハウジング ☎098-996-4598
月～金 8:30～17:30
- 1 モデルルームこくば ☎098-996-4669
月定休 10:00～17:00
- 2 コープ葬祭 ●葬儀のご依頼
☎0120-456-791
24時間 365日
- 2 ひやごんホール ●学習会・葬・仏壇
☎098-932-3336
- 3 コープ共済センター ●ご加入・契約変更など
☎0120-50-9431
- 3 コープおきなわ本部 ☎098-879-7711
〒901-2588 浦添市西原 1-2-1

発行 2023年8月

お問い合わせ

生活協同組合コープおきなわ総合推進室
tel.098-879-1144 fax.098-879-1199